

ロシアナのロシアな話—お仕事編— ／いちのへ友里



イラスト 岩井正幸

“О й (オーイ)…”。気圧のせいでと信じている頭痛に、こんなため息をつくロシア人を見かけたら。“О й (オイ)!”。そろそろお正月特別番組を準備しなくちゃと、こんな叫び声をあげるアナウンサーが増えたら。それは「ロシアの声」冬が訪れた合図です。

10月29日に78周年を迎えた国営放送「ロシアの声」は、日本語を含む33言語で、160カ国へ向けラジオ・インターネットで配信されている国際放送で、そして日本語課アナウンサーである私の職場です。

入社したアナウンサーは毎日、ニュース原稿を読む前に、まずはその原稿をロシア語から母国語へと翻訳します。

“ユーリー・ガガーリン”“ロシア宇宙分野の星”“尊敬すべきわれらが宇宙飛行士”…。同じ対象も同じ言葉を使わずに表現して豊かさを醸し出すロシア語では、ただでさえ難しい人物名は要注意!

“打ち上げはカザフスタンのバイコヌール基地で17時”と書かれていても、“バイコヌール基地”のカタカナ読み表記は? 17時は日本時間で何時に? など、日本向けに確認作業が必要です。

“スプートニク打ち上げから50周年”がトップニュースなら、それがロシアで昔からどれほど名誉なことか、そして現在どのように祝われているかを先輩アナウンサーがコメントします。“カモメの鳴き声”という宇宙用語が出てきたら、日本語に直訳するとどういう意味か、日本人の感覚でいうとどんなものを指すか…。新人アナウンサーの私にはすべてがロシアを知るきっかけです。

ロシア語で聞くには数年間、ロシア語に翻訳するには数時間かかるロシアからの声が、ダイヤルを合わせれば、今日もすぐそこに聞こえてきます。思わず“О й (オーイ)…”と感嘆するような、そして“О й (オイ)!”と驚くような、そんなロシアを感じてみませんか。



「ロシアの声」の公式ホームページ(<http://www.ruvr.ru/>)は日本語も選択可能。ラジオ放送は、午後9—11時(中波630/720キロヘルツ、短波5920/6180キロヘルツ。10時台はほかに短波6005キロヘルツも)です。

(モスクワ在住、ロシア国営放送「ロシアの声」アナウンサー)